

「兄弟として警告しなさい」

2018年12月06日

テサロニケの信徒への手紙 二 3章11節～18節 ところが、聞くところによると、あなたがたの中には怠惰な生活をし、少しも働かず、余計なことをしている者がいるということです。そのような者たちに、わたしたちは主イエス・キリストに結ばれた者として命じ、勧めます。自分で得たパンを食べるように、落ち着いて仕事をしなさい。そして、兄弟たち、あなたがたは、たゆまず善いことをしなさい。もし、この手紙でわたしたちの言うことに従わない者がいれば、その者には特に気をつけて、かかわりを持たないようにしなさい。そうすれば、彼は恥じ入るでしょう。しかし、その人を敵とは見なさず、兄弟として警告しなさい。

どうか、平和の主御自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和をお与えくださるように。主があなたがた一同と共におられるように。わたしパウロが、自分の手で挨拶を記します。これはどの手紙にも記す印です。わたしはこのように書きます。わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように。

「著者」は真面目に働き、糧を得て、他の人に負担がかからないように模範を示し、「働きたくない者は、食べてはならない」と命じて来た。ところが、主の日は近くやって来て、裁かれるのだから、働いても仕方がないと怠惰な生活をする者たちがいた。終末信仰を誤解した訳である。「著者」は、「ところが、聞くところによると、あなたがたの中には怠惰な生活をし、少しも働かず、余計なことをしている者がいるということです」と案じている。そのような者たちに、主イエス・キリストに結ばれた者として命じ、勧める。「自分で得たパンを食べるように、落ち着いて仕事をしなさい」。勤勉に働いてパンを得て、落ち着いた、地に足のついた生活をしなさいと諭している。

「そして、兄弟たち、あなたがたは、たゆまず善いことをしなさい」。キリスト信徒たちは圧倒的な少数者であった。キリスト信徒が市民として自由が保障されることは重要であり、善をすることによって、可能となったであろう。もし、この手紙で私たちの言葉に従わない者がいれば、その者には特に気をつけて、関わりを持たないようにしなさい。そうすれば、彼は恥じ入るでしょう。しかし、その人を敵とは見なさず、兄弟として警告しなさい。「敵とは見なさず、兄弟として警告しなさい」という言葉を聞いて、ホツとする。Ⅱテサロニケには、不法の者は、主イエスの口から吐く息で殺されるとか、キリストの福音に聞き従わない者は、永遠の破滅という刑罰を受けるとか、関わりを持たないようにしなさいとか、厳しい裁きと関係の遮断を促す言葉が多かった。その中で「敵とは見なさず、兄弟として警告しなさい」という言葉は、嬉しく響く。互いの弱さを認め合って、兄弟として接し続けてほしい。キリストの福音に信従する者は称賛に価するが、キリストに敵対している彼らもキリストに愛された者であることに間違いはないと思うからである。

「どうか、平和の主御自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和をお与えくださるように。主があなたがた一同と共におられるように」。平和の主イエスが臨在される場所に平和が実現する。「著者」はパウロになり切って、私、パウロは目が悪く、口述筆記をさせたので、どの手紙も最後には、私の手で挨拶を記すと書いている。「わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように」。最後の祝福の祈りである。